

平成 31 年度・令和 1 年度 『社会福祉法人昴会』 事業報告書

1. 平成 31 年度・令和 1 年度の重点課題からの振り返り

(1) 虐待の防止・・・法人虐待防止委員会の取り組み

今年度も、四季の郷、第一大山荘・第二大山荘・第三大山荘、細江あすなろ作業所、大山ファーム・すばる、アグリッシュ西丘の現場職員から各 1 名ずつ虐待防止委員を任命し、毎月の委員会と 10 月と 2 月には法人全職員や非常勤職員等を対象の虐待防止研修会を実施した。

毎月の委員会では、関わりに関する各施設・事業所の現況報告や半期に 1 回全職員で行う虐待防止セルフチェック結果の考察・予防策の検討等を行ってきた。虐待防止研修会の内容は以下の通り。

回	月日	主 な 内 容 等
1	10 月 31 日	『虐待予防と行動障害』 内部講師 ※嘔吐処理実践研修を同時開催
2	2 月 15 日	『不適切ケアを考える』 外部講師

委員会内での繰り返しの検討や報告を行い、各施設・事業所の会議等でフィードバックを行うことで、虐待防止・人権擁護の意識の高まりを感じた。半面、施設・事業所ごとに利用者像や事業の目的が異なるため、法人虐待防止委員会が中心となって検討していくのではなく、施設・事業所で意識を高める取り組みが実施できるように援護できる組織を目指して行きたいとの総括もなされた。

(2) 具体的な支援や関わりの質を高める

四季の郷は QOL 向上委員会を中心に、その他の事業所はケア会議（職員会議）の場を通して、関わりの質を高める取り組みを実施してきた。毎月実施している管理者会議や法人虐待防止委員会内でも各施設・事業所より現況報告がなされ、個人の問題ではなく、法人の問題、課題として取り上げてきた。特に法人虐待防止委員会での議論の中で、関わりについての理論的な学びや、自分たちの言動の振り返りの機会が必要とされたため、2 月 15 日（土）には、普段なかなか研修の機会が少なくなってしまう非常勤職員や比較的経験が浅い現場職員を中心に、外部講師の元『不適切ケアを考える』と題した研修会を実施するに至った。

(3) 専門性を高めるための機会の充実

今年度も、法人はじめ各施設・事業所とも研修の機会をしっかりと持つよう取り組んできた。特に、障害理解や虐待防止等の研修には、積極的に参加をしてきた。

また、通信教育を通して社会福祉士を目指す職員も見られ、勤務やシフトを調整するなどして、資格取得を支援してきた。

Off-JT の機会を多くしてきた一方で、やはり OJT の大切さと、限られた職員人数とシフトで動く仕事環境の下での実施の難しさも感じるに至った。特に職員のモチベーションを高めることにつながる仕事の面白さやその意味を伝え、学んでいく機会をどのように確保していくかが来年度の課題の 1 つであると思った。

(4) 職員人材確保の取り組みの実施。

年間を通して、市社協人材バンク登録や民間の求人媒体への求人広告を出したり、相談会や面接会にも参加してきたが、問い合わせや直接話をする機会もとても少なかった。そもそも福祉業界への就労希望が極端に減っている状況で、面接会に参加する求職者人数も、とても少なくなってきた。

そのような中で、四季の郷の女性夜勤専門職員、シニア世代の職員、新卒学生等を採用することができた。特に新卒学生の採用については、四季の郷での現場実習を通して採用につながったこともあり、あらためて大学や専門学校の実習を受け入れていくことの大切さを感じるに至った。

また、将来を考え、前年度に続き外国人材の活用を目指してベトナムの技能実習生の獲得について手続きを進めてきたが、「『介護』とは違うのでは?」、「『介護』より難しく感じる」とのベトナムのある教育機関より評価を受け、その教育機関からの紹介は見られなかった。次年度についても、引き続き、アプローチをしていきたい。

(5) 苦情受付・解決担当者会議を通して、サービス提供に関わる苦情の受付を積極的に行う。

今年度も、苦情に限らず、要望や意見を広く受付を行ってきた。

受け入れ件数は 14 件であった。内容的には、誤解や説明不足、利用者やご家族に接する態度・姿勢に関わる職員の言動に関するもの、職員の単純なミスや確認不足に起因するもの、送迎車の運転に関わるもの、地域住民の障害理解に関わるもの、利用者間のトラブルに起因するもの等であった。

まず、職員の接する態度・姿勢に関しては、法人虐待防止委員会でも問われた内容であったこともあり、研修会の実施につながっていった。送迎車の運転に関わるものについては、前年度も見られたことでもあり、また特に送迎を行う通所事業所職員は車の事故のリスクが高くなるため、次年度に自動車教習所のプログラムを導入した研修会の実施を検討中である。

2. 各事業の利用実績

施設・事業名		年間 開所日数	利用者数× 利用日数	1日平均 利用者数	事業 定員	備 考
四季の郷	施設入所支援	365 日	16,789 人日	45.9 人	50 人	
	生活介護	270 日	12,653 人日	46.9 人	55 人	平均障害支援区分 5.3
	短期入所	365 日	933 人日	2.5 人	10 人	
第一大山荘		365 日	1,824 人日	5.0 人	5 人	
第二大山荘・第三大山荘		365 日	4,307 人日	11.8 人	12 人	
細江あすなろ作業所		255 日	4,498 人日	17.7 人	20 人	平均障害支援区分 4.6
大山ファーム	就労移行支援	262 日	558 人日	2.2 人	6 人	就労アセスメント含む
	就労継続支援B型	262 日	4,974 人日	19.0 人	22 人	
アグリッシュ西丘		262 日	5,389 人日	20.6 人	20 人	
事業所合計			51,925 人日	(30年度) 51,064 人日		

3. 法人評議員会の開催

第1回 令和1年6月25日(月) 13:30~15:00 於. 四季の郷会議室

(欠席者) 2名

- (議案) 1. 平成30年度事業報告書案の審議
 2. 平成30年度収支決算書案の審議
 3. 監事監査の認定について
 4. 社会福祉法人昴会新役員の承認について

※報告事項

4. 法人理事会の開催

第1回 令和1年5月31日（金）14:00～16:00 於. 四季の郷会議室

（欠席者）理事1名

- （議案）
1. 平成30年度事業報告書案の認定
 2. 平成30年度収支決算書案の認定
 3. 監事監査の認定について
 4. 社会福祉法人昴会経理規程の改定について
 5. 社会福祉法人昴会役員を選出について
 6. 社会福祉法人昴会定款の変更について
 7. 令和1年度第1回評議員会の議題について

※報告事項

第2回 令和1年6月25日（月）16:15～16:35 於. 四季の郷会議室

（欠席者）なし

- （議案）
1. 理事長の選任について

第3回 令和1年8月28日（水）15:00～16:00 於. 四季の郷会議室

（欠席者）理事1名

- （議案）
1. 四季の郷非常発電設備設置業者の入札実施について
 2. 昴会事業の整理・変更について
 3. 外国人技能実習生の受け入れについて
 4. アグリッシュ西丘の土地について

第4回 令和1年9月25日（水）14:00～15:40 於. 四季の郷会議室

（欠席者）なし

- （議案）
1. 西丘町の土地の売却について

第5回 令和2年1月20日（月）13:30～15:20 於. 四季の郷会議室

（欠席者）なし

- （議案）
1. 令和1年度第一次補正予算案の審議
 2. 昴会職員給与体系の変更について
 3. 昴会評議員選任・解任委員の選出について
 4. 四季の郷生活介護事業の指定上の定員の一部をアグリッシュ西丘に移行することについて

第6回 令和2年3月27日（金）14:00～16:30 於. 四季の郷会議室

（欠席者）なし

- （議案）
1. 令和1年度第二次補正予算案の審議
 2. 令和2年度昴会事業計画案の審議
 3. 令和2年度昴会収支予算案の審議
 4. 令和2年4月からの事業所管理者の変更について

※報告事項

5. 法人監事による内部監査の実施

令和1年5月20日（月）、安富 恒理事長、袴田章彦理事、伊藤利郎事務局長が同席し、伊藤秀俊監事、落合克能監事による平成30年度決算監査を実施した。

6. 借入金の償還

「第二大山荘」・「第三大山荘」及び「大山ファーム」建設資金として独立行政法人福祉・医療機構よりの借入金について、平成31年度・令和1年度は以下のように償還を行った。

<第二大山荘・第三大山荘>

令和 1年 9月 利子

18,742 円

利用者の障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性				3	10	12	25
女性			1	3	10	9	23
	平均障害支援区分						5.3

3. 具体的な取り組み

以下、平成31年度・令和1年度四季の郷事業計画に沿って振り返りを行う。

(1) 常に人権を守る意識を土台にし、質の高いサービス提供に努める。

①QOL向上委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め5名の職員での『QOL向上委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での取り組みは以下の通り。

●職員サービス自己評価の実施と前年度結果の集計及び改善に向けた取り組みの実施

…平成31年3月に30年度サービス自己評価を実施した。その結果を受けて、今年度は、エンパワメントの視点を意識した取り組み作りを行うこととなった。結果、利用者自治会での取り組みの強化（選択をし易いような工夫等）、グループ活動の内容決め、旅行雑誌やグルメ雑誌の活用、日中活動や余暇活動に利用者の要望を今以上に取り入れていくこと等の取り組みを行ってきた。

取り組みの中間評価については、令和1年度のサービス自己評価の中で実施した。

●職員の関わりについての強化月間の設置

…前年度に引き続き、『おもてなし』強化月間を設定し、あいさつや身だしなみ等の基本的な支援や配慮に対する職員の意識の向上に努めた。

●利用者の意思決定への支援

利用者自治会の運営

…利用者自治会の実施

今年度も、日頃の声掛けや関わりへの配慮や工夫と共に、利用者から選ばれた会長を中心に役員その他参加希望者によって自治会の取り組みを行った。

自分の意思が確認できるように雑誌や写真、絵、実物を使ったイメージ出しの取り組みや、言葉での表現が苦手な利用者でも選択ができるような工夫を行ってきた。

利用者自治会役員会の内容は以下の通り。

月日	主 な 内 容
4/22	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者自治会活動説明 ・おやつ提供時間変更への感想・意見聞き取り ・入浴時間変更の説明 ・セレクトドリンク、セレクトふりかけ内容決め ・「おやつの日」実施の説明
5/13	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の利用者自治会会長、副会長の選出 ・セレクトドリンク、入浴剤の内容決め ・入浴時間変更の説明
6/19	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りのカレーライストッピングの内容決め ・セレクトドリンク、セレクトふりかけ、入浴剤の内容決め
7/27	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りの飲み物の希望聞き取り ・セレクトドリンク、入浴剤の内容決め ・活動内容の希望聞き取り
8/31	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りの感想・意見聞き取り ・セレクトドリンク、セレクトジャム、入浴剤の内容決め ・ビニールプール実施説明 ・活動内容の希望聞き取り

9/12	<ul style="list-style-type: none"> ・秋祭りオープニング企画の説明 ・秋の選択食の説明 ・セレクトドリンク、入浴剤の内容決め ・活動内容の希望聞き取り
10/31	<ul style="list-style-type: none"> ・秋祭りの具体的な内容説明 ・クリスマス会の希望メニュー聞き取り ・セレクトドリンクの内容決め ・ディスペンパックの内容説明 ・日頃の感想、意見聞き取り
11/30	<ul style="list-style-type: none"> ・秋祭りの感想聞き取り ・クリスマス会ランチメニュー発表 ・セレクトドリンク、入浴剤の内容決め ・日頃の感想、意見聞き取り ・法人の苦情受付窓口の説明
12/17	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会の具体的な内容説明 ・セレクトおやつ希望聞き取り ・セレクトドリンク、セレクトジャム、入浴剤の内容決め ・日頃の感想、意見聞き取り
1/17	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい入所者紹介 ・セレクトドリンク、セレクトふりかけ、入浴剤の内容決め
2/20	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな祭りのメニュー希望聞き取り ・寿司の日のネタの希望聞き取り ・セレクトおやつ希望聞き取り ・セレクトドリンク、セレクトふりかけ内容決め ・3月利用者自治会総会の内容決め
3/11 午前	利用者自治会総会実施 <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告 ・賞状授与
3/11 午後	※利用者自治会お疲れ様会は新型コロナウイルス感染拡大により中止

●身体拘束モニタリングの実施

毎月、利用者の状況と身体拘束記録表に基づき身体拘束のモニタリングを実施した。身体拘束を実施することなく安全性が保てるような取り組みを意識しながら、身体拘束の必要性や効果について確認を行ってきた。

②虐待を防止する取り組み

四季の郷から選任されている法人虐待防止委員会委員をQOL向上委員に加え、QOL向上委員会での内容が法人虐待防止委員会につながっていくよう取り組みを実施してきた。年度内2回の虐待防止に関わる職員セルフチェックを実施してきた。

(2) めりはりのある生活ができるように支援を行う。

①支援体制

●施設支援計画・モニタリング

今年度も、年度当初に前年度の支援状況の確認と支援計画に関する説明を利用者、保護者・家族または後見人とケース担当者の三者面談の中で実施してきた。また、10月にも再度利用者・保護者等と支援目標等についての確認を行い、利用者本位の支援の実施を心掛けてきた。

●生活支援体制

今年度も、A・B棟二舎制の生活環境をベースに支援を行ってきた。

二舎制にしたことで、A棟グループ（比較的行動範囲の広い若年層グループ）とB棟グループ（下肢機能が低下していた一定の医療ケアが必要な高齢者グループ）それぞれの生

活ペースが作ることができた半面、A棟とB棟の職員の連携面では、申し送りが不足したりすることも見られた。

●会議

今年度は、以下の会議を実施してきた。

・職員全体会議

半年に1回（4月・10月）開催。全職員出席。事務や医務、栄養の各部署からの連絡事項と共に、4月は施設全般の方向性の確認、事業計画及び支援体制の確認、「働き方改革」への取り組み説明等を、10月には後期の支援内容の確認、感染症予防等の確認を行った。

・男女別ケア会議

今年度も毎月1回ずつ実施してきたが、現場での支援員の連携をより強化していくことを目的にして、男女別と男女合同での2つの形で実施してきた。サービス管理責任者・支援員・看護師・栄養士出席し、利用者の状況把握や情報の共有、働きかけや取り組みの確認、ケース検討などを行った。

・給食会議

毎月1回開催した。施設長・事務局長、サービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等を行った。

・主任者会議

毎月1回開催した。施設長、サービス管理責任者・主任及び副主任が出席した。支援全般の課題等の具体的な検討・調整等を行った。

・各委員会

※QOL向上委員会、危機管理委員会は別項で報告。

・その他の会議

夏祭りや秋祭りなどの大きな行事の前には、担当者での行事会議を実施した。また、支援の困難なケースについては、個別のケース会議を実施した。

②日中課業活動の支援

今年度は各活動単位で日中活動を実施した。

A. 平日の課業活動支援（生活介護事業での日中活動支援）

介護度の高まりや夏場の異常高温もあり、今年度も毎日実施はできなかったが、週案に沿って安定的に実施してきた。また、希望者にはあんま師による関節可動域維持のための施術を取り入れた。以下が活動グループ。

●作業系

・外注作業班 ・リサイクル活動班

●歩行系

・体力活動班 ・健康活動班 ・ドライブ&散歩班

●リハビリ系

・機能維持活動班

B. 休日等のクラブ活動支援

今年度も、余暇活動として以下のクラブ活動を実施した。

●音楽クラブ

カラオケや季節に合った歌をうたったりしてきた。

●競技クラブ

『フライングディスク競技大会』や『県知協オレンジマラソン大会』出場を目指し練習を行った。『オレンジマラソン大会』は大雨のため出場を断念したのは残念であ

った。

●**絵画クラブ**

今年度も、12月に実施された『愛護ギャラリー展』に出展をした。それに向けて利用者個々の絵画づくりを中心に活動を行った。

●**元気クラブ**

平日の活動の補完的な意味も含め、散歩中心の活動を行った。

●**家庭科クラブ**

調理やおやつ作りを行った。

●**作業クラブ**

自閉症利用者を対象に、フック作業棟の軽作業活動を行った。

③**行事活動の支援**

今年度も、ねらい別に全体行事、グループ活動、誕生会・季節行事に大きく分けて、職員の役割分担の下で行事活動を行った。

A. **全体行事**

●**春の親子遠足・・・5月26日（日）**

今年度も豊橋総合動植物公園に出掛けた。利用者、家族、ボランティア、職員の計102名の参加。

●**夏祭り・・・8月24日（土）**

今年度も、四季の郷利用者に楽しんでもらうことを重点に実施した。早めに夕食を摂り、16時から開催した。19時からは花火も楽しむことができた。今年度も出店等で四季の郷保護者会の支援もいただいた。ボランティアの協力もあり、合計で約100名の参加となった。

●**秋祭り&保護者会バザー・・・11月23日（土）**

今年度も12月の「障害者週間」を踏まえて、地元大山町の自治会長に一日施設長委嘱を行った。また、浜松市内の吹奏楽団や地元グループの踊り、地元企業のゆるキャラの参加や出店、四季の郷保護者会主催のバザー等を、学生ボランティア等の協力の元で盛大に実施できた。

●**クリスマス会・・・12月21日（土）**

利用者自治会での要望を元に準備したランチの喫食、音楽ボラによる演奏会、保護者会役員が扮するサンタクロースからのプレゼント等、楽しい時間を過ごした。

B. **グループ活動**

今年度は、エンパワメントを高める取り組みを重点にして、その月の参加利用者のやりたいことや行きたいこと、食べたいものを確認する機会を事前に設けながら、計11回の小グループでの活動を行った。観光地への外出や食事会だけでなく、工場見学や喫茶店などの企画もあった。利用者の満足度がかなり高かったのではないかと思った。

C. **誕生会・季節行事**

今年度も、生活の“めりはり”に季節感を入れ込んでいきたいという理由から、お花見や七夕、新年会、節分などの企画を、誕生会との同時企画という形で実施してきた。

D. **その他の行事**

えんしんファミリー映画会やヤマハ労連チャリティ公演（ミュージカル）、作品展やスポーツ大会に参加してきた。

④健康を維持するための支援

●医療管理

今年度も、体調の変化の早期発見と早期対応に努めてきた。そのために支援員や栄養士との連携を行ってきた。

服薬管理等の日常的な医療管理は嘱託医による月2回の定期受診に基づき実施してきた。また、年2回の健康診断や年1回の歯科検診で発見された糖尿病や高血圧、心疾患、虫歯、歯槽膿漏等の病気・症状に対しては、早めの通院を心掛けた。

今年度も利用者のインフルエンザの集団感染は見られなかった。しかし、年度終わりがごろには、新型コロナウイルスが流行し始めたこともあり、体温チェックなどの体調チェック、換気や手すりや利用者が触る場所を重点にした消毒等の感染予防対策を実施した。3月には利用中の短期入所利用者が発熱したため、帰宅後も相談支援事業所職員と協力して5日間ほど健康チェックの連絡を行った。幸いにも、ウイルス感染症状ではなかった。

●栄養管理

医療・支援側との連携を保ちつつ、管理栄養士の管理の元で利用者一人ひとりに合った食事提供を行ってきた。

特別食の内容はダイエット食・嚥下食等があり、その他糖尿対応のカロリー指定、食欲不振や偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫、栄養強化の必要がある利用者には栄養補助食品を使用している。年々、利用者の高齢化による嚥下力が低下している利用者が増え、嚥下（ペースト）食・極刻み食等、利用者の嚥下状況に合わせた食事の提供が必要になってきた。

また、栄養ケアマネジメントにより、栄養士だけではなく他職種との連携をとりながらトータル的な栄養ケアを行ってきた。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを心掛けてきた。

献立作成時は旬の食材の取り入れ、利用者の要望を取り入れた季節感のある行事食を提供してきた。

震災時への対応としては、6日分の非常食と飲料水を確保し、防災倉庫に備蓄。

施設利用者にとって、食事は一日の楽しみの大きな部分を占めているため、今後も栄養管理・衛生管理・感染予防をしっかりと行い、利用者に喜んでもらえるような食事を提供していきたい。

※食事提供の状況

2020/04 現在

盛り付け量	主食	カロリー	男	女	合計
極々小	60g	1450kcal	0	0	0
極小	100g	1550kcal	0	6	6
小	120g	1650kcal	6	13	19
中	150g	1750kcal	5	2	7
大	200g	1950kcal	5	2	7
特大	250g	2150kcal	7	1	8
超特大	300g	2350kcal	1	0	1
合計			24	24	48

種類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	1	3	4
	コンニャクライス	0	2	2
	低脂肪牛乳	0	0	0
	糖尿食	0	0	0
	心臓病対応食（塩分制限）	0	0	0
	極刻み食	0	3	3

	刻み食	11	11	22
	一口大	2	1	3
	嚙下ミキサー食	0	0	0
栄養補助食品	微量栄養素補助食品	0	1	1
	栄養強化食品	2	2	4

(3) 安全・安心の生活ができる環境づくりを行う。

①危機管理委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め5名の職員での『危機管理委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での前月の事故報告書、ひやり・はっと報告書の集計・分析を行うと共に再発防止策の検討を行った。必要な場合には、主任者会議やケア会議につなげ、再発防止策の具体的な検討や周知を行ってきた。

②防災訓練

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。訓練実施後は、参加者にチェックシートの記入をしてもらい、その訓練ごとに振り返りを行ってきた。

火災時は、火元近くの利用者優先に避難・確認を実施することを重点に実施してきた。

実施月日	訓練実施内容
4月10日	夜間火災を想定しての避難訓練、水消火器による消火訓練
5月17日	土日の日中火災を想定しての避難訓練、非常食調理訓練
6月28日	平日日中の大規模地震（全館停電）を想定しての避難訓練を実施
7月10日	大雨による河川氾濫の避難訓練
8月14日	平日の日中火災を想定しての避難訓練、水消火器による消火訓練
9月18日	平日夜間帯の火災を想定しての避難訓練 安否コールを使用した送受信訓練及び非常招集訓練を実施
10月16日	休日日中火災を想定しての避難訓練、消防署との逆信応答訓練
11月8日	平日日中の大規模地震を想定しての避難訓練、テント設営訓練
12月14日	平日日中火災を想定しての避難訓練（抜き打ち）
1月15日	夜間帯の火災を想定しての避難訓練、水消火器による消火訓練
2月5日	湖東消防署消防隊員によるAEDを用いての心肺蘇生訓練 異物除去、溺水時の処置方法の実技講習
3月4日	平日日中火災を想定しての避難訓練

(4) 家族や地域の方々との関わりを深め、障害者福祉の地域拠点となるように努める。

①四季の郷保護者会の事務局機能

…保護者会役員会や保護者会行事の補助等の保護者会との橋渡しを行った。

②行事ボランティアの募集・受け入れ

…秋祭り等の行事の手伝いをしてくれるボランティアの募集について、近隣大学に募集依頼を行った。また一般のボランティアは職員を通して募集・依頼をしてきた。

③実習生の受け入れ

今年度も積極的に実習生の受け入れを行ってきた。今年度も例年受け入れを行ってきた大学・専門学校を中心に実習生の受け入れを行ってきたが、前年度と比較して、のべ日数、のべ人数には大きな差はないものの、大学等単位での回数は減少した。背景に学生数の減

少がある様子。

※実習生受け入れ実績 (平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月／実習受け入れ順)

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
中部学院大学通信教育部	社会福祉実習	5月1日～5月24日	21	1
浜松学院大学短期大学部	保育実習	7月8日～7月20日	12	2
静岡県立大学短期大学部	社会福祉実習	8月16日～9月6日	18	1
浜松学院大学	保育実習	9月9日～9月21日	12	2
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月4日～11月15日	10	2
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月18日～11月28日	10	2
浜松医療福祉専門学校	体験実習(歯科衛生士)	6月・7月・9月(1日ずつ)	21	21
実習受け入れのべ日数			148日	
実習受け入れのべ人数			31名	

④短期入所

前年度に比べ、受け入れのべ人数は大差がないが、のべ日数は減少が見られた。前年度より単純に受け入れ人数が減少したためと言えるが、比較的長期利用をしていた数名の利用者を、年度途中に入所に移行したことも理由の一つであると考えられる。

概ね 10 数名の利用者が毎月一定期間を繰り返し利用されている傾向が見られ、新規の利用は比較的少なかった。相談支援事業所から送迎サービスの有無の問い合わせが多かった。より利用を多くしていくためにも、送迎サービスの実施も検討していきたい。

⑤日中一時支援事業

●受け入れ実績

今年度の受け入れについては、浜松市と磐田市で委託契約を結び事業を行ってきた。浜松市は西区、北区、中区、南区からの利用が見られたが、磐田市からは利用は見られなかった。帰宅実績は以下の通りである。

	浜松市		磐田市	
	のべ人数	のべ時間	実人数	のべ時間
	72人	2637時間	0人	0時間
	平成 31 年度・令和 1 年度 実人数 72 人／のべ 2637 時間		平成 30 年度 実人数 62 人／のべ 2339 時間	

(5) 職員のスキルアップに努める。

①職員研修の実施

今年度も、積極的に園内研修および外部研修を実施してきた。

園内研修については、人権擁護や危機管理に関わる内容が多かった。

外部研修についても、知的障害者福祉協会や社会福祉協議会主催の研修を中心に、経験や関心、ケース担当利用者との絡みでの人選を行い参加につなげた。

●園内研修

日付	研修内容	参加者
5月29日	「バンクシア・フィットネス(エクササイズ)」 (サビ管・支援員) 外部講師	16名
6月26日	「外部研修報告(アンガーマネジメント) &事例検討(5ピクチャーズ)」	19名

	(施設長・サビ管・支援員)	
7月18日	「リスクマネジメント&応急処置」(希望支援員)	19名
7月18日	「新任職員研修(法人内施設見学)」(法人新任職員)	5名
9月25日	「施設見学(日中活動がポイント)」(希望支援員)	6名
10月31日	法人虐待防止委員会主催研修「虐待予防と行動障害」 「感染症(嘔吐処理)実践研修」(法人全職員)	40名
11月29日	「ケア会議のあり方と進め方」(施設長・主任者)	7名
12月9日	「感染症(DVD)研修&嘔吐処理実践研修」 (サビ管理・支援員)	5名
1月30日	「高齢者の支援のポイント」(支援員)外部講師	19名
2月5日	法人虐待防止委員会主催研修「不適切ケアを考える」 (法人非常勤・経験が少ない職員)外部講師	20名

*現場把握職員、夜勤入りの職員を除く

●外部研修

日付	研修内容	参加者
5月10日	感染症講座(初級編)	支援員1名
6月4日	光明学園研修会	支援員2名
6月10日	アンダーマネジメントを学ぶ講座	支援員1名
6月7日	静岡県知的障害者福祉協会 福祉大会	施設長 支援員1名
6月17日	西部地区施設連絡会6月研修会	サビ管・ 支援員1名
7月4日～5日	日知協東海地区会施設職員研究協議会	施設長・ 支援員1名
7月22日～23日	日知協全国施設長等会議	施設長
7月22・23・24日	社会福祉事務職員経理応用講座	事務員1名
8月12・13・15・28日	静岡県障害者虐待防止・権利擁護研修	サビ管
8月19・20日	2019年度強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	サビ管・ 支援員2名
8月21・26日	2019年度強度行動障害支援者養成研修(実践研修)	サビ管
9月5日～6日	日知協東海地区会施設長等研究協議会	施設長
9月24・25日	社会福祉会計簿記講座	事務員1名
9月25日	てんかんに関する医療職研修会	看護師
9月27日	西部地区施設連絡会9月施設見学	支援員1名
10月10日	県知協栄養部会研究集会	栄養士
11月7日～8日	県知協障害者支援施設部会研究集会	施設長・ 支援員1名
12月3・4日	静岡県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	支援員1名

第一大山荘

1. 入居者の状況(令和2年3月31日現在)

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	70	平成14年10月	四季の郷(生活介護)
2	Bさん	男	63	平成14年10月	大山ファーム(就労継続B型)
3	Cさん	男	68	平成21年10月	アグリッシュ西丘(就労継続B)
4	Dさん	女	63	平成22年5月	パルステック工業株式会社就職

5	Eさん	女	58	平成31年4月	アグリッシュ西丘（就労継続B）
---	-----	---	----	---------	-----------------

※H31年度・令和1年度中1名入居（満床）

2. 支援の状況

- ・年々、入居者の高齢化に伴う介護度の高まりや通院等の機会の増加が見られている。特に、高血圧や糖尿病等の生活習慣病の罹患や悪化が見られている。協力医療機関への通院を行い、医師より指導や投薬を受けているが、本人の病気理解や現況理解が難しく、職員の説明に理解ができなかったり、意味は分かっているがなかなか応じることができない姿も見られた。健康管理を本人と如何に進めて行くかが課題である。
- ・生活の主体者は利用者であることを意識した支援を行なった。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、情報提供と利用者の自己選択・自己決定を尊重し、そして本人の生活スタイルや自由、要望に応えることを大切にしたい支援を行った。
- ・めりはりのある日常生活送れるように、平日は日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘、四季の郷、就労先の会社との連絡調整を行い、連携・協力して支援を行った。また、土日は地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができるように、法人の行事や地域の行事、催し物の情報提供をおこなった。
- ・「事故」については、今年度は見られなかった。職員が付き添うことが多くなってきたことと、もともと一人で外出・行動ができる利用者ばかりであることがその理由であると思う。
- ・感染症対策としては、インフルエンザ予防接種及び日常的な予防に努めた。結果、今季もインフルエンザ罹患が見られた入居者の方は見られなかった。また、3月の新型コロナウイルス感染拡大の時期には、マスクの着用や手洗い指導を繰り返し行った。外出時の注意度も伝え、本人自身が注意してもらえるように取り組みを行った。どれだけの理解が得られたのかは不明だが、入居者なりに注意をしてくれている姿も見られた。
- ・家族（成年後見人等）とは、面談や必要な連絡、日帰り帰宅等の機会を通して連携を保ってきた。
- ・地域の方々との関わりについては、自治会に入会し地域行事に積極的に参加した。地域の方も行事参加への誘い掛けをして頂いたり、見かけた時には声を掛けて頂くなど、地域住民の一人として接し、気に掛けて頂いていることを感じた。
- ・スキルアップについては、法人の職員研修や外部研修、グループホーム連絡会などに参加した。その研修内容については、職員会議内の時間を使い他の職員へ報告させた。

3. 支援体制

- ・支援体制としては、管理者、世話人（パート職員1名）、生活支援員、補職職員が日常生活支援に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、食事支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整などを行った。また、バックアップ施設の四季の郷職員、日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘職員、相談支援事業所職員、パルステック工業の担当者とも連携・協力して支援を行った。

4. 健康支援

- ・毎朝の検温と血圧測定、年2回の健康診断を通して健康管理に努めた。また、疾患のある入居者のために日常的な服薬管理、通院支援を継続した。また、日中活動先での歯科検診や年2回の健康診断の結果を踏まえ、必要な利用者の受診支援を行った。

5. 行事

- ・第一大山荘全体での行事は計画していないが、昴会の各事業所行事や第二大山荘・第三大山

荘、地域の行事等に関する情報提供を行い、希望に応じて参加させてもらった。

- ・「第17回わかふじスポーツ大会」へ3名の入居者がボーリング競技に出場した。残念ながら上位には届かなかったが、他の参加者やボランティアとの交流を深めていた。

6. 会議・研修

- ・第一大山荘の会議は年6回（偶数月）に実施した。主に支援を行う世話人は非常勤職員の1人配置のため、日常的に利用者の状態や運営について管理者と密に話をするように努めた。また、法人の職員研修や外部研修、グループホーム連絡会などにも参加した。職員会議については、緊急案件対応以外、2ヶ月に1回を定例化してきた。

7. 防災の取り組み

- ・防災訓練実施状況は以下の通り。

5月16日	夜間の火災を想定しての避難訓練
7月18日	大雨による土砂災害を想定しての避難訓練
9月12日	地震を想定しての避難訓練
2月20日	消火訓練、応急手当訓練、緊急脱出訓練

第二大山荘・第三大山荘

1. 入居者の状況（令和2年3月31日現在）

第二大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	72	平成21年9月	引佐草の根作業所
2	Bさん	男	68	平成21年9月	細江あすなろ作業所
3	Cさん	男	56	平成21年9月	細江あすなろ作業所
4	Dさん	男	54	平成21年9月	大山ファーム
5	Eさん	男	45	平成21年9月	細江あすなろ作業所
6	Fさん	男	73	平成24年3月	アグリッシュ西丘

第三大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Gさん	女	74	平成21年9月	アグリッシュ西丘
2	Hさん	女	54	平成21年9月	細江あすなろ作業所
3	Iさん	女	53	平成28年4月	大山ファーム
4	Jさん	女	69	平成29年6月	アグリッシュ西丘
5	Kさん	女	68	平成27年6月	細江あすなろ作業所
6	※Lさん	女	59	平成21年9月	アグリッシュ西丘 (R2.3.20退所)

※H31年度・令和1年度中1名退所

2. 支援の状況

- ・今年度も法人昴会の基本理念に沿って「生き生きとした暮らしの実現」「地域での主体的な暮らし」を目指し支援を行ってきた。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、本人の生活スタイルや自由、要望に応えること、意思決定支援、そのための情報提供を大切にされた支援を行った。

- ・めりはりのある日常生活送れるように、平日は日中活動先の大山ファーム、あすなろ作業所、アグリッシュ西丘、相談支援事業所と連携・協力して支援を行った。また、土日は地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができるように、法人の行事や地域の行事・催し物の情報提供と参加できるように支援した。
- ・「事故」については、今年度は発生は見られなかった。第二大山荘・第三大山荘の利用者の半数が65歳以上と高齢化が進んでいるので、引き続き、転倒等の事故の発生予防に努めていきたいと思う。
- ・感染症について、グループホーム内で5名のインフルエンザ罹患が見られた。そのため、入居者全員、2週間ほどの期間、日中活動の通所を取りやめた。高齢者が多く心配をしたが、幸いにも重症者は出なかった。そもそも同じ日中活動場所に通っていた入居者であったが、感染経路は不明であった。
- ・家族（成年後見人等）とは、年2回の個別面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携関係を保ってきた。
- ・3月に、第三大山荘の入居者1名が特別養護老人ホームに移行した。この間、地域包括支援センターや障害者相談支援事業所とも連携をとって、本人に合った移行先が確保できたことは良かった。

3. 支援体制

- ・管理者、生活支援員、世話人が日常的生活支援・介助に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡る支援を行った。また、日中活動先である四季の郷の職員、大山ファーム職員、アグリッシュ西丘職員、あすなろ作業所職員、草の根作業所職員、相談支援事業所相談員、四季の郷看護師・栄養士等とも連携・協力して支援を行った。
- ・少数職員体制で支援を行なっているグループホームでは、職員個人の経験や知識、生活観が支援内容に直結しやすい特性があるため、職員間で支援目標や方針の共有・理解を図るよう、会議の有効活用や小まめな情報交換・意見交換を心掛けた。

3. 行事

- ・第二大山荘・第三大山荘の行事としては、個々人の余暇支援と合わせて、季節を感じることもできる外出、地域との交流等、日々の生活が単調にならないよう行事計画や情報提供を心掛けた。また、地域の祭りにも積極的に参加した。参加は、その都度希望者を募った。

主な行事は以下の通り。

えんしん映画招待、花火、四季の郷夏祭り・秋祭り、食事外出、初詣、誕生会、おやつ作り、地元行事、障害者スポーツ大会

4. 健康支援

- ・毎朝の検温を実施し、日々の体調観察に努めた。定期的に精神科と呼吸器科、循環器科等の通院に加え、年2回の健康診断の結果や日中活動先での歯科検診を踏まえ、要治療の入居者の受診支援を行った。

5. 防災の取り組み

- ・火災等災害発生防止に努めるとともに、定期的に火災、地震等の災害を想定した訓練を実施した。また、2月には四季の郷の防災講習会（AEDを使った心肺蘇生訓練等）に参加した。
- ・防災訓練実施状況

5月30日	大雨による土砂災害を想定しての避難訓練
6月29日	平日の昼間の火災を想定しての避難訓練
7月20日	夜間の火災を想定しての避難訓練（夜間実施）
9月21日	総合防災訓練（南海トラフ大地震の発生を想定しての避難訓練）
11月2日	社会福祉施設総合防災訓練
2月15日	休日昼間の火災を想定しての避難訓練と地震体験訓練

6. 会議・研修

- ・月1回、利用者の支援に関わる職員会議を行った。
- ・研修については、法人単位の研修会に参加したり、職員会議内の時間を使った「外部研修の報告」、「防犯対策」、「感染予防」、「虐待防止」、「事故防止」等をテーマにした内部研修を実施した。
- ・外部研修については、全国グループホーム等研修会（1名）、東海地区知的障害福祉関係職員研究大会（2名）。また、浜松グループホーム連絡会での「施設見学」と、自立支援連絡会への参加を行った。

細江あすなろ作業所

1. 利用状況

*利用者の状況 定員20名 利用者21名（男性12名／女性9名）

年齢性別	知的障がい	
	男性（名）	女性（名）
70代	0	1
60代	3	1
50代	2	1
40代	2	2
30代	0	1
20代	5	3
10代	0	0
計	12	9

※平均年齢44.3歳

障害程度区分	人数（名）	利用者本人の住居状況	人数（名）
3	3	自宅	12
4	6	GH 大山荘	5
5	11	四季の郷	3
6	1	他のGH	1
計	21	計	21

※平均区分4.6

2. 作業状況 開所日数 255日

- ①下請作業 ・エイテック（有） プラスチック部品の仕分け
自動車部品の組み付け
- ②自主製品 ・せっけん作り
・ぼかし
・咲織り

- ・縫製用品

③自主製品の販売

販売方法

- ・作業所
- ・農協祭
- ・わ西部地区会参加賞
- ・浜松南ライオンズクラブ

委託販売

細江町社協・三ヶ日町社協・奥浜名湖商工会・咲夢茶店、とんきい・竜ヶ岩洞

④その他

- ・農作業
- ・アルミ缶回収

3. 活動状況

(1) 利用者の意思及び人格を尊重。

利用者個々にアセスメントを行い、利用者が安全で楽しい日中活動が送れる場の提供に努めた。特に個別外出を年2回行い、利用者とのより良い関係づくりに努め、職員間での情報共有をおこなった。

3月後半コロナウイルスの関係で、外出できない利用者が出てしまった。

(2) 利用者の自立した日常生活または社会生活を営む能力の向上。

特に、服装に関して季節、清潔に重点をおき、家庭との連絡を密にし、家庭事情で把握が困難な家庭については、家庭の許可を得て日常生活品の購入や作業所内の衣類の管理支援をおこなった。

(3) 利用者の食を原点とする衛生面の自立を目指す。

- ・食事前の手洗いに関し清潔を意識する支援を行った。せっけんに不慣れな利用者には泡状のポンプを使用。
- ・食事の場面では、支援員がつき食事における咀嚼、消化能力の向上を意識した声掛けを行った。
- ・年に1回歯科衛生士による指導のもと、ブラッシング支援を行った。歯科医院に受診できない利用者さんがまだブラッシングのみの受診ではあるが保護者と受診できるようになった。

(4) 筋力の衰えを防ぎ、体力の維持を目指す。

- ・毎日のラジオ体操、ロコトレ体操を行い、個々のペースにあった歩行を行った。
- ・指導者を外部から招き、機能訓練を含めた体操を行った。
- ・2名に関しては、有料ではあるが専門家によるリラクゼーションを行った。

(5) 生産活動を通じて、社会の一員であるという自覚の持てる支援を行う。

- ・高齢化、重度化に伴い下請作業では対応できない部分が増えたので、自立課題を提供し作業に必要な態度、技術、集中力、知識、協調性などの習得を目指した。
- ・自主製品特に咲き織りを女性中心に行った。
- ・自然と親しむことを目的に、農作業も導入した。野菜の収穫を行うことができた。

(6) 表現活動、行事イベントの体験から個人の生きがい向上に努めた。

- ・音楽を利用した表現活動に力を入れ、4人の講師による音楽療法、ミュージックセ

ラピーを行い、ダンスを中心とした表現活動を行った。

- ・11月3日、アルスノヴァ主催のスタ・タン3に一次審査を通過して出場。審査員賞受賞した。
- ・3月には第2回目の「細江DE音楽祭」を計画したが、コロナウイルス対策のため外部に向けての発表は断念。利用者のみで行った。

4. 行事

- 4月 健康診断
- 5月 デューク松永さんによるアコーディオン演奏
- 6月 カレーな音楽会（浜松協働学舎主催）
2町ボーリング大会
日帰り旅行
- 7月 愛は地球を救うの募金活動
- 8月 GG つよしさんによる歌謡ショー
- 9月 ビックフラットによる演奏
防災訓練
- 10月 ふれあいスポーツレクレーション大会
Kクラブ活動（フットサル）
歯科検診
- 11月 スタ・タン3
ほのぼのマーケット
- 12月 地区防災訓練
クリスマス会（三畳一間さん）
忘年会
- 1月 農協祭
- 2月 地区作品展
- 3月 防災訓練

その他の行事・プログラム

- 月1回 誕生会（もしくは昼食会）
音楽療法士による音楽会
音楽療法士による音と遊ぶ
アコーディオン奏者による歌う会
インストラクターによるレクダンス
2名の講師による軽体操・健康セラピー
- 年3回 医師による健康相談
- 年1回 歯科衛生士による口腔指導

4. 職員研修

- ・西部地区職員研修
- ・法人新任職員研修
- ・施設長研修
- ・法人研修 障害者虐待防止、権利擁護研修
- ・サービス管理責任者更新研修
- ・上級救急講習
- ・強度行動障害 基礎研修 実践研修

- ・リンパ体操
- ・自閉症スペクトラムの理解と支援
- ・法人研修 不適切ケア

大山ファーム

1. 利用者状況

月	在籍者 (名)		1日の平均 出勤者数 (名)		稼働率 (%)		契約者		終了者		契約終了理 由
	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	
4	3	20	2.8	17.0	47.7	77.4	2	0	0	0	
5	3	20	2.9	16.8	49.2	76.6	0	1	1	1	
6	2	21	2.3	18.0	38.8	82.0	0	1	0	0	
7	2	22	2.0	17.6	34.0	80.4	0	1	0	0	
8	2	23	1.8	19.5	30.9	88.7	0	1	0	0	
9	2	23	1.8	20.3	31.0	92.5	0	0	0	0	
10	2	23	2.1	20.0	36.2	91.1	0	0	0	0	
11	2	22	2.2	19.1	37.8	87.1	0	0	0	0	
12	2	22	1.6	19.4	28.0	88.4	0	0	0	0	
1	2	22	1.9	19.3	31.8	87.8	0	0	0	0	
2	2	22	2.0	20.1	33.3	91.3	0	0	0	0	
3	2	22	1.5	20.2	26.5	92.1	0	0	2	2	
平均	2.1	21.8	2.0	18.9	35.4	86.2	2	4	3	3	

(男性：14人平均年齢30.8歳／女性：7人平均年齢37.7歳)

(1) 利用定員

○就労移行支援（6名）・就労継続B型支援（22名）

(2) 新規利用者内訳

○地域からの利用…1名（就労移行支援2名・就労継続支援B型4名）

相談支援事業所や特別支援学校等と連携を図りながら、就労移行支援・就労継続支援B型の募集を行った。

(3) 退所者内訳

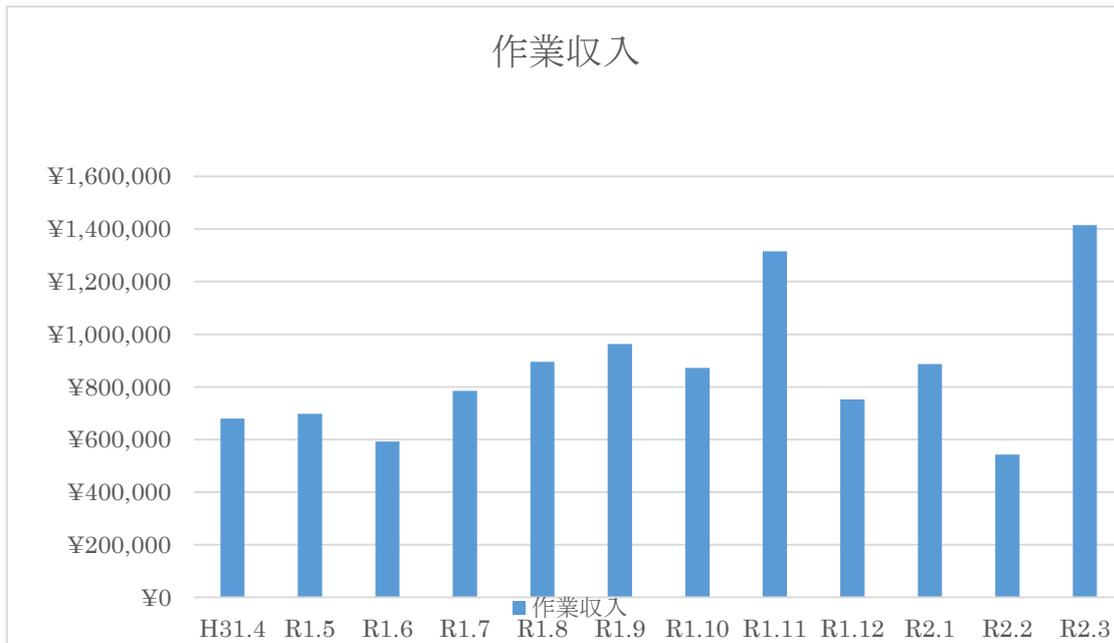
○一般就労…1名、事業所内異動…2名、支援事業所変更…3名

（就労移行支援3名・就労継続支援B型3名）

就労移行支援は2年間という限られた期間で一般就労へ向けて支援を行うため、雇用情勢や残りの期間を見据えて大山ファームの就労継続支援B型へ異動するケースがあった。また、就労継続支援B型の利用者であるが半年間の実習を経て一般就労に結びついたケースもあった。

2. 支援の状況

(1) 作業収入割合



●令和元年度総収入 10,397,278 円 (平成 30 年度総収入 10,178,882 円)

(2) 支払工賃

●工賃総額 5,741,700 円 (平成 30 年度工賃総額) 5,363,329 円

●月一人あたりの平均工賃 就労継続支援B型 20,118 円
(平成 30 年度平均工賃) 就労継続支援B型 16,043 円

(2) 支払工賃

他の事業所との差別化を行うため、就労移行支援・就労継続支援 B 型事業を行っている大山ファームは、一般就労及び平均工賃の向上 (平均工賃 20,000 円以上) を目標に活動を行ってきた。また、ミニトマトの他に新たな自主製品を模索した。

(3) 施設外作業

実習先事業所	作業内容	備考
(福)おおぞら療育センター	衣類整理業務	
(福)四季の郷	清掃・衣類整理業務	12 月終了
(医)西山病院	庭園管理業務	
(福)慶成会	清掃等	3 月終了
(有)船越造園	除草作業	不定期
法林寺	除草・清掃作業	月に 1 回
めせあファーム	玉ねぎの収穫・除草等	
るぴなすの畑	野菜の収穫・除草等	
優先調達	除草作業・維持管理作業	重要文化財中村家住宅、舞阪市民の森等

就労に必要なスキル (挨拶やマナー) を経験・実践する場として施設外作業を位置付け支援を行った。また、グループ単位で作業を進めていくことで連携や協調性を育むことができた。障害者優先調達法により、優先的に公的機関の除草業務等を請け負うことができるようになった。

(4) 下請け作業

委託先	作業内容	備 考
(株)TG	自動車部品の組み付け	
(株)ワコー	自動車部品の組み付け	
(株)ダイセン	物品仕分け・梱包	

利用者の特性や費用対効果の分析を行い、作業手順の再考や単価交渉を行った。

(5) 自主製品

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
ミニトマト（小売販売）	無人販売所	ふぁ～まるしえ
（委託販売）	J Aとびあファーマーズマーケット	三方原店・浜北店
	ヴィラ東山苑	高齢者施設
	るびなすの畑	バイキングレストラン
染色、縫製（小売販売）	無人販売所	ふぁ～まるしえ

栽培作物（ミニトマト等）

ミニトマトについては近隣の農家よりも2ヶ月ほど早く5月中旬に定植した。品種は千果を選定したが、夏の暑さで実の付きが悪く急遽アイコを20%ほど入れ替えた。そのため、年間を通しての収量としては例年の70%ほどであった。

施設外作業でつながりのある農家の元で作業をしている時に玉ねぎの皮が大量に捨ててあることにヒントを得て玉ねぎ染めに挑戦した。仕上がった生地を利用して手ぬぐいや雑貨を販売した。そこで培った経験（ミシンなど）から手作りマスクを作成、販売した。

3. 健康支援

希望者に対して4月に健康診断、12月に歯科検診を大山ファームで実施した。

感染症対策として12月から通所時の検温や換気、湿度の調整を行った。また、利用者にもうがいや手洗い等の必要性を伝えると共に継続的に意識できるようにポスターを掲示した。インフルエンザが流行することはなかった。コロナウイルス対策では、マスク着用の徹底と検温、時間差で昼食を食べるなどの対応を行った。

4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

年間、3回の防災訓練を行った。（9月「総合防災訓練」11月「福祉施設防災訓練」3月「事業所内防災訓練」）また、定期的に帛会通所事業所が集まり、防災・危機管理について情報交換を行った。

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

5. 行事

5月には大山ファームの敷地内でバーベキューや正月休み明けには買い出しから調理までを利用者と一緒に行う新年会を行った。令和2年2月に第9回目となる地域交流まつりを予定していたがコロナウイルス感染拡大防止のため、中止することとなった。

6. 会議・研修

調整会議（委託作業等に関わる調整事項…1回/週）支援員会議（利用者支援に関わる内容…1回/月）モニタリング会議（個別支援計画に関わる内容…2回/年）を行った。

内部研修は「新人職員研修」「通所部防災対策及び危機管理について」「虐待予防と行動障害」を行った。

外部研修については行政や静岡県知的障害者福祉協会の研修へ積極的に参加して関係機関、事業所のつながりを意識した。支援プログラムの質の向上のため、社会就労センター協議会が

主催した研修に参加した。

アグリッシュ西丘

1. 利用者状況

	在籍者数	一日平均 通所者数	稼働率	新規 契約者数	退所者数	退所理由
4	28名	19.0名	95.0%	4名	0名	
5	29	19.4	97.0	1	0	
6	31	21.0	105.0	2	0	
7	31	21.6	108.2	0	1	家事手伝い
8	31	20.9	104.3	1	0	
9	31	21.5	107.3	0	0	
10	31	21.7	108.8	0	0	
11	31	20.7	103.4	0	0	
12	31	19.5	97.5	0	1	自立訓練移行
1	30	20.8	104.0	0	0	
2	30	19.5	97.5	0	1	自宅療養
3	29	19.7	98.8	0	1	特養移行
平均	30.25	20.44	102.2	8	4	

利用定員 就労継続B型支援（20名）

【新規利用者内訳】

- ・特別支援学校の就労実習や見学を実施していることから、卒業後の進路先の一つとして認識してもらえるようになった。4月より卒業生1名が利用契約利用開始。
- ・地域からの利用…在宅1名／他の就労継続支援B型から移行2名／病院1名
4月は新規契約者4名、5月～6月にかけて体験実習していた在宅の精神的な障害特性の方が3名ほど契約者する。
- ・法人内の就労支援B型の施設より2名の方が移行。また、病院から同法人グループホームに入居した方1名が契約。

特別支援学校や相談支援事業所等と連携することで新規利用者の確保に努めた。地域からの利用者の特徴としては過去に就労経験があり、中途に身体的な障害となった方の利用ニーズや、在宅での精神的な障害を持っている方のニーズが上がってきている。作業内容や支援方法に工夫に努めた。

2. 支援の状況

(1) 平成31年度・令和1年度作業総収入 2,208,658円

開所から続けてきたリサイクル作業が、1月から一旦終了となってしまった。ガーベラの仕事が、農家の方の都合で中止となってしまい、その2つによる減少は大きかった。一方で、梱包系の農作業物の梱包作業等の新たな作業を受けてきた。来年度に向けては、利用者の工賃を安定的に確保できるよう、下請け作業や外部施設外作業などの比率を上げ、できるだけ諸経費が掛からない仕事を増やすことも考えていきたい。

※支払工賃の状況

工賃総額 1,913,262円（月一人あたりの平均工賃 5,270.6円）

(2) 作業の状況

●施設外作業

実習先事業所	作業内容	備考
パセリ農家	パセリ片付け・耕耘作業	
宮本肥料店	堆肥の袋詰め	

●下請け作業

委託先	作業内容	備 考
昭栄商会(株)	プラスチック製品の リサイクル前処理	
水野加工(有)	自動車部品組み立て バリ取り	
ワコー(株)	自動車部品組み立て	
大五運送(株)	お菓子梱包作業・缶バッジ	

●農作業

事業所での栽培（LED水耕と露地物）

LED水耕は、Gリーフレタス、サニーレタスの栽培を実施してきた。新規品種のフリルア
イスを導入し、売り上げの向上を目指した。露地では、おくら、さつまいも、サトイモ、唐辛
子の栽培を実施した。

栽培した農作物は、以下のような場で販売をしてきた。

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
小売販売	各行事	
委託販売	J Aとびあファーマーズマーケット ファーマルシェ アグリッシュ四季の郷販売	三方原店

(3) 行事实施状況

- 5月 2日（木）バーベキュー会
- 8月 12日（月）弁当買い出し・バリアフリー上映会販売
- 8月 17日（土）収穫祭（夏）
- 8月 24日（土）四季の郷夏祭り（販売）
- 11月 17日（日）あすなろほのぼのマーケット（販売）
- 11月 23日（土）四季の郷秋祭り（販売）
- 11月 24日（日）スマイルフェスタ
- 12月 28日（土）弁当買い出し
- 1月 4日（金）新年会
- 1月 18日（土）収穫祭（冬）

※3月にも販売の予定があったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。

3. 研修

(1) 園内研修

回	月日	内 容	参加者
1	5/11 15:30～ 17:00	障害特性に応じた理解と支援 ・高次脳機能障害 ・肝性脳症	管理者・サビ管・ 支援員 5名
2	8/10 15:30～ 17:00	①障害特性に応じた理解と支援 ・強度行動障害 ②サービス利用等計画と個別支援計画書	サビ管・ 支援員 5名
3	10/31 17:30～ 19:00	法人研修会 虐待予防と行動障害 ～静岡県虐待防止研修会を受講して＋ 感染症(嘔吐)の処置方法	管理者・サビ管・ 支援員 5名

4	2/15 9:30～ 11:30	法人研修会 不適切ケアを考える	支援員 3名
5	3/9 18:00～ 19:00	①フォークリフトの使用時の安全研修 ②虐待防止研修 職員セルフチェックの実施	サビ管・ 支援員 5名
6	3/17 13:30～ 14:30	福祉の森、記入方法 記録の大切さ ・業務の割り振り ・障害者理解	サビ管 支援員 2名

(2) 外部研修

回	月日	内 容	参加者
1	9/26 13:00～ 16:00	次世代育成のための研修	支援員 1名
2	11/7 8:00～ 16:30	刈り払い機取り扱い作業者に対する安全教育	支援員 1名
3	11/28 9:30～ 17:30	サービス管理責任者等更新研修	サビ管

すばる

1. 受け入れ実績

今年度から浜松市委託相談支援事業の受託を行わず、担当職員の配置を0.5人分減らして、特定相談支援事業(計画相談)のみの事業を行ってきた。それでも、他の西区の委託相談支援事業所と連携して、利用者によっては引き続き支援の継続を行ったり、変化によるショック緩和のために半年程度は利用者のフォローを行ってきた。

また、各障害福祉サービス事業所はもとより、地域包括支援センターや精神科病院等とも連携をしながら事業を実施してきた。

平成31年度・令和1年度の受け入れ実績は、以下の通りである。

特定相談支援事業(計画相談)

※計画書作成とモニタリング実施の請求数(のべ件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画 モニタリング	45	53	57	48	49	60	42	45	54	46	50	47	596

2. 研修等

対応困難ケース等に対する職員間の情報共有や支援・対応の確認は、日々の業務の間で実施してきたが、以下のような内部・外部研修を実施・参加してきた。

(1) 内部研修

月日	テーマ・内容	参加者
9/25	個別支援記録のあり方	管理者、相談員 2名

2/12	事例検討のあり方	管理者、相談員 3名
------	----------	------------

(2) 外部研修

月日	テーマ・内容	主催
5/16	終活講座～相続～	地域包括支援センター和地
7/24	成年後見制度利用促進事業講演会	浜松市社会福祉協議会
7/27	聖隷三方原病院精神科領域スタッフと 地域スタッフ交流会	聖隷三方原病院
8/28	浜松市自立支援協議会構成員研修	基幹相談支援センター
10/1・ 10/9・ 10/17	静岡県相談支援従事者現認研修	静岡県

事業報告の附属明細書

平成 31 年度・令和 1 年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

社会福祉法人 昂会